



TITLE:

貿易統計の新しい任務 - グレーヴェルの所説の紹介 -

AUTHOR(S):

有田, 正三

CITATION:

有田, 正三. 貿易統計の新しい任務 - グレーヴェルの所説の紹介 -. 経済論叢 1941, 52(1): 145-149

ISSUE DATE:

1941-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131487>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第五十二卷 第一號

昭和十六年一月

論 叢

國家科學としての經濟學……………經濟學博士 谷口吉彦

林子平とその經濟思想……………經濟學博士 本庄榮治郎

調査における統計の役割……………經濟學博士 蜷川虎三

我國經濟發達の特質に就て……………經濟學士 堀江保藏

公庫制の生成機縁……………經濟學士 徳永清行

道家の經濟思想……………經濟學士 穂積文雄

研 究

シュピイトホフの景氣理論の批判……………經濟學士 青山秀夫

下請制工業の國民經濟的意義……………經濟學士 田杉競

英國經濟學に於ける東洋社會の理論……………經濟學士 島恭彦

說 苑

貿易統計の新しい任務……………經濟學士 有田正三

アツシニア紙幣……………經濟學士 河野健二

附 錄

彙報・外國雜誌論題

説苑

貿易統計の新しい任務

——グレーヴエルの所説の紹介——

有田正三

この小稿の目的とする所は、グレーヴエルの論文『貿易統計の新しい任務¹⁾』を紹介することである。

世界恐慌を轉機として國際貿易關係並びに各國の貿易政策には極めて大なる變化が齎らされるに至つたが、之に對應して貿易統計が十分なる利用性を發揮し得るためには、今日に於けるその任務の明確なる把握を前提して、統計作成方法の上に遺憾なき處置が講ぜられねばならぬ。しかして貿易統計論がもつ今日最大の課題の一つも亦これが指針の提供にあると云はねばならぬ。グレーヴエルのこの論文は所説の内容から見

貿易統計の新しい任務

てこの問題に關説するものゝ内で最も適當なものと思へられる。敢て紹介する所以である。

グレーヴエルがこの論文に於てとり上げてゐる基本的な問題は内容的に要約すれば次の二つの問題である。第一の問題は、今日の國際貿易狀勢並びに各國の貿易政策の動向が貿易統計の任務を如何に變化させ、新しく如何なる任務を課してゐるか、一言にして云へば今日に於ける貿易統計の任務を明確にすることである。この問題はグレーヴエルのこの論文の中心的問題であるが、同時に次の第二の問題の解決のための前提としての意義をもつものである。第二の問題は、今日に於ける任務に對應して、貿易統計は如何なる方向に如何に整備されねばならぬか、貿易統計整備の方向を指示することである。この二つの問題を解決することに依つて、「理想的な貿易統計」の輪廓は自ら明かとなり、獨逸貿易統計の現状批判の基準、今後に於ける整備充實の目標を得ることが出来るであらう。茲にグレーヴエルの目的がある譯である。

第五十二卷 四五 第一號 一四五

- 1) Dr. Walter Grävell, (Direktor im Statistischen Reichsamt).
- 2) Neue Aufgabe der Aussenhandelsstatistik, Beiträge zur deutschen Statistik, herausg. von P. Flaskämper und A. Blind, Leipzig 1936, S. 169 u. ff.

なほグレーヴエルは、敍上の二つの問題の解明に附随して、斷片的ではあるが、獨逸貿易統計の現状に就て示唆深い批判を行つてゐるけれども、その紹介は他日を期し、本稿に於てはグレーヴエルがとり上げてゐる二つの中心的な問題に紹介の範圍を限定したい。

二

第一の問題、今日に於ける貿易統計の任務に就て。

グレーヴエルは貿易統計の任務を問題にする殆ど總ての學者と同様に、貿易統計の利用部面を捉へ、これを行政(Verwaltung)、經營(Wirtschaft)、學問(Wissenschaft)の三部面に分け、各部面に於ける貿易統計の意義の歴史的考察を通して今日の貿易統計の任務を導き出してゐる。その所説を結論的に示せば、世界恐慌を轉機として貿易統計の任務は行政部面のみならず經營・學問の部面にまで擴がると共に、行政部面の貿易統計に對する直接的依存性が高まり、「政策の手段」としての貿易統計の任務の著しい増大が見られると。

各部面に於ける貿易統計の今日の任務としてグレー

ヴエルの擧げる所を見るに次の如くである。

行政部面¹⁾。通商條約の締結、條約效果の檢討に材料を提供することが、従前より貿易統計のもつ重要な任務であつたが、最近に於ける條約の更訂頻繁化はかゝる意味に於ける貿易統計の任務を著しく大ならしめ、更に數量協定、清算協定等の互惠主義的通商協定の締結運用が貿易統計を直接的基礎としてなされるに至つてゐる。茲に云ふ互惠主義的通商協定の締結運用の直接的基礎としての貿易統計の任務に就てグレーヴエルの強調してゐる要點は、それが第一に通商條約の一般的最惠待遇附與の原則より互惠主義の原則への轉換に對應する新しい任務であり、第二に貿易管理に對する貿易統計の任務と共に政策の樹立並びに運用の直接的基礎としてもつ任務であると云ふことで、次に擧げるものと共に貿易統計と政策との結び付きの強化が見られる。行政部面に於けるいま一つの任務として擧げられてゐるものは輸出入の統制管理の直接的基礎として貿易統計の任務で、恐慌前に見られなかつた全く新し

1) W. v. Loefen, F. W. R. Zimmermann, H. Grimm, H. v. Scheel, C. v. Tyska, J. Breuer 等を擧げることが出來る。
 2) Grävell, a. a. O., S. 170. 3) Grävell, a. a. O., S. 172.
 4) Grävell, a. a. O., S. 170, 172-3

い任務であると考へられてゐる。

經營部面⁵⁾。經營部面に於ける貿易統計の任務が急激に増大したことは、グレーヴェルの強調する貿易統計の任務の恐慌を轉機とする變化の一つである。第一の任務としてグレーヴェルの擧げるものは、輸入制限又は輸入管理の下に於ける輸入の可能性の判斷に材料を提供することである。第二は國外市場に於ける取引關係、買付及び賣込の可能性の觀察研究に材料を提供すること、經營並びに經營政策の合理化、科學性の増進が要望されるにともなひ、國外市場の觀察研究の重要性を増すにともなつて貿易統計のかゝる任務の重大性が指摘されねばならぬ。第三に國內向商品の生産並びに販賣に従事するものゝ外國向商品への轉換の可能性に對する認識の材料となることも、グレーヴェルの指摘する經營部面に於ける貿易統計の任務である。

最後に學問上の任務⁶⁾として擧げられてゐる點は、之を内容的に要約するに、經濟學的研究に對して研究資料となる點にあるが、この任務は近時經濟學的研究が

貿易統計の新しい任務

總體的に實證的となり、具體的問題に關說する所多くなるにともなつて、極めて大きくなつたことが指摘されてゐる。

三

第二の問題、今日の任務に適應せる貿易統計整備の方向に就て。

世界恐慌を轉機として擴大され且新しく形成された貿易統計の認務に關するグレーヴェルの所説の要點は敍上の如くであるが、この任務が十分に果されるために貿易統計の具備すべき要件を明かにし、貿易統計整備の方向を指示しなければ、貿易統計の任務の規定は意味をもたない。茲に第二の問題が提起される所以である。

この問題に關するグレーヴェルの所説を結論的に示せば、貿易統計の今日の任務は貿易統計に「凡ゆる國際的商品流通の簿記⁷⁾」となることを要求してゐると。而してかゝるものとして貿易統計が具備しなければならぬ條件としてグレーヴェルが擧げる所のものは、

5) Grävell, a. a. O., S. 170, 173-5.
6) Grävell, a. a. O., S. 170-I, 175.
1) Grävell, a. a. O., S. 175.

第一に語るべきものを語つてゐること、即ち利用性 (Branchbarkeit) であり、第二に語るべきものを正確に語つてゐること、即ち正確性 (Richtigkeit) であり、第三に結果提供の迅速性 (Schnelligkeit) であり、第四に國際的比較適性 (internationale Vergleichbarkeit) である。²⁾

是等の諸要件の規定の前提をなすものは、今日の貿易統計の任務であるが、グレーヴェルの所説を見ると、貿易統制又は管理、互惠主義的通商條約の直接的基礎としての貿易統計の任務に特に重點が置かれてゐる。即ち、

第一に、貿易統制又は貿易管理、互惠主義的通商政策が「輸出入兩者の相互依存性と商品並びに資本の運動の相互關聯性の認識、特定の國、特に獨逸に對しては輸出が保障し得る範圍と方法に輸入を止めねばならぬと云ふ必要に基くものである」³⁾故、これに對應して貿易統計が語らねばならぬものは國際的資本移動の一環としてみた商品流通であり、勞働と利得か失業と損失か、外貨を取得し得るか手放さねばならぬかを明確

にして始めて利用性をもつものである。⁴⁾しかして貿易統計上の基本的概念たる數量 (Menge)、價額 (Wert) 方向 (Richtung) の規定に當つて、數量としては純量 (Reinsewichen)、價額として輸出⇨國境 F. O. B. 價格、輸入⇨國境 C. I. F. 價格、方向として輸出⇨消費地 (Verbrauchsland)、輸入⇨原產地 (Ursprungsland) 或は製造地 (Herstellungsländ) がとらるべきであると云ふ所説は、この主張から誘導された方法上の指示である。⁵⁾

第二に正確性並びに迅速性に就ては、政策の貿易統計に對する直接的依存性の増大と云ふ點にそれらが特に要請される所以があることを指摘した⁶⁾後、グレーヴェルは申告及びそのの整理編成の正確性、迅速性が兩者の基礎的要件であることを説いて方法上の指示を與へてゐる。⁷⁾

第三に國際的比較適性に就て見るに、それが要請されるのは主として互惠主義的通商條約の締結並びに運用に當つて、協定當事國の貿易統計比較の必要に基く。⁸⁾グレーヴェルはかくの如く國際的比較適性が必要

2) Grävell, a. a. O., S. 175-6.

3) Grävell, a. a. O., S. 176-6.

5) Grävell, a. a. O., S. 179-183.

7) Grävell, a. a. O., S. 176-9, 183-4.

4) Grävell, a. a. O., S. 175-6, 179.

6) Grävell, a. a. O., S. 175-6.

8) Grävell, a. a. O., S. 164-5.

なる所以を説いた後、貿易統計の方法並びに様式上に於ける差違が國際的比較適性の阻害因子たることを指摘し、國際的協約の履行に依つてこれを除去すべきことを主張してゐる。

四

今日に於ける貿易統計の任務並びに之に對應する貿易統計整備の方向に關するグレーヴエルの所説は以上の如くである。

貿易統計論の領域に於て、貿易統計の任務に關する所説は決して少くないが、その大部分が世界恐慌前の状態を基礎にしたものであることを想起する時、グレーヴエルが世界恐慌後の擴大され且新しく形成された任務を體系的に問題にしてゐる點は高く評價されねばならぬ。更に貿易統制又は管理、互惠主義的通商政策の直接的基礎としての貿易統計の任務を特に重視し、それを前提して貿易統計整備の方向を指示してゐる點の實踐的意義は、敍上の諸政策が今日國民經濟に於て有つ意義並びに將來に鑑み、看過すべからざるものが

ある。最後に注目すべき點としては、グレーヴエルが貿易統計整備の方向として、貿易統計が語るべき國際的商品流通が國際的資本移動の一環として把握すべきことを要請してゐる點である。この要請は、貿易統計が「貿易統計」か「貨物運輸統計」かに關する年來の問題を、貿易統計の貨物運輸統計に對する完全なる訣別と優位性の方向に於て、しかも世界恐慌後の新しい事態の下に於て、解決を促さんとするものに外ならない。

9) Grävell, a. a. O., S. 185-191.

10) Grävell, a. a. O., S. 191-3.